
初詣の日

未醒夢観

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初詣の日

【Nコード】

N0243P

【作者名】

未醒夢観

【あらすじ】

D・C・???ダ・カーポ2のSS二次創作です。

ただの自己満足かも。

ちなみに音姉より由夢ちゃん派です。

音姉と義之の初詣での一コマです。

読んで感想くれると嬉しいかな。

音姉エンドを見たほうがいいかもです。

初詣の日

「弟くん！初詣に行こうよ！」

部屋に入ってくるなり音姉は大声でこう言ってきた。

「ノックくらいしてよ！ 音姉！」

危なかった。音姉の目を逃れた唯一の『男の情熱』^{バトス}が、バレる所だった。急いで、ベッドの下に隠した。

「ねえ、弟くん今から行こうよ！ 初詣！」

そう、今日は元旦。初詣に行くのにぴったりの日。ですが、天気は晴れているけど昨日の雪が積もっているくらい寒い。

「音姉、悪いけど俺はパス。由夢と行きなよ」

「由夢ちゃんはや、寒いですから私はパス。兄さんと行きなよ」
だつてさ。だから行こうよ！」

由夢の奴め。押し付けやがったな。

「えー。寒いよ、音姉」

「弟くん……私と行くの……や？」

「うっ……」

上目使いでこちらを見ってくる。ズルイな……

「弟くん、私たち恋人さんなんだよね？ だから、デートしよっ？」
くそっ！ 反則だ！

「わかったよ音姉。行こうか」

「やった！ 弟くん大好き！」

「お、音姉！ 抱きつくなよ……」

仕方ないな……まあ、俺もまんざらでもない。

「じゃあ用意して……あれ？ 弟くん！ 昨日大掃除したのにまたベッドの下に物が落ちてるよ？ ダメだよベッドの下に物を置いちゃ……」

「うはあ！ マズイ！」

やばい！『男の情熱』^{バトス}がつつつ！

「『イケナイ女医の背徳診察室』秘密のお注射……弟くん、秘密のお注射ってどんな注射なんだろうね？」

「麻酔……かな？ あははは……」

「うふふふ……」

「……」

「……弟くん！そこに正座なさああああい！！」

「はいい！」

お説教が終わり、初詣の準備が出来たのはそれから二時間後だった。

——神社——

「弟くん、何をお願いしたの？」

「まあ、色々だね」

音姉とこれからも仲良く出来ますようにとか、俺の『男の情熱』^{バトス}が、もう犠牲になりませんようにとか……

「イテテテ！ なにすんだよ音姉！」

「今、エッチな事考えたでしょ」

相変わらず鋭いやつめ。

「弟くんがエッチなことを考えるのは、わたしのことを嫌いだからなの？」

「どうしてそうなるんだよ？」

「だって……弟くんが、他の女の人を見てるのやなんだもん……くそっ可愛いな……」

「……わかったよ。もうああいうの見ない！」

言っちゃまったよ！

「え？ ホント！」

「……極力」

弱いなあ俺。

「まあ、今日のところはこれで勘弁しましょう」
そういうと、音姉は俺の腕に抱きついてきた。

「お、音姉？」

「なあに？ 弟くん」

「他の人が見てるかも知れないから……」
少し恥ずかしいな。

「……じゃあ、弟くんがエツチな本持ってたの許さない」
「わかったよ……」

音姉が腕に抱きついたまま、参道を歩いてゆく。

「あー！義之君だぁ！」

「あつ！ 茜！」

「あら。私もいるわよ。それと小恋も」

「やほー義之」

「杏！ 小恋！」

会いたくない時に、雪月花三人娘と会ってしまった。

「音姫先輩こんにちは！ あれえ？ 義之君デート中？」

「そうみたいね。顔に『会いたくなかったぁ』って書いてあるわ」

「邪魔しちや悪いよぉ」

全くだ。邪魔とまでは言わないが、後でからかわれるのは嫌だな。

「なら、あとは若い人たちに任せて。行きましよう、小恋、茜」

「そうねえ行きましようか」

「じゃあね、義之」

ワイワイ騒ぎながら、参道を雪月花三人娘が歩いて行った。

「どうしたの音姉？」

三人娘に会ってから終始無言だった音姉に聞いた。

「……弟くんモテるね」

「へ？」

何を言い出すんだ、音姉。

「弟くん、女の子と話す時楽しそうだったね」

「ち、違っよ！」

「……そうかな」

音姉がへそを曲げてしまった。

「なあ、音姉。」

「何かな弟くん」

「俺言ったよな『もう音姉から離れない』って。『もう音姉を一人にしないって』これ嘘じゃいから」

「……」

「恥ずかしいけど言うか」

「……好きだよ音姉」

「！」

音姉が顔を赤くしてこっちを見る。それに笑顔で返す。

「……しょうがないなあ弟くんは」

「帰ろうか音姉」

「うん！」

家に帰る道では、終始笑顔な音姉だった。

「おせちの残りを帰ったら食べようね、弟くん！」

「そうだな」

「あと帰ったら、弟くんの部屋をもう一度掃除しようか」

「へ？ どうして？」

「弟くんが他にエッチな本持っていないか確認するの」

「え？」

「どうしたのかな？ 弟くん」

「な、なんでもないよ音姉！ あはははは……」

お正月は落ち着けなさそうだな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0243p/>

初詣の日

2010年11月20日17時51分発行